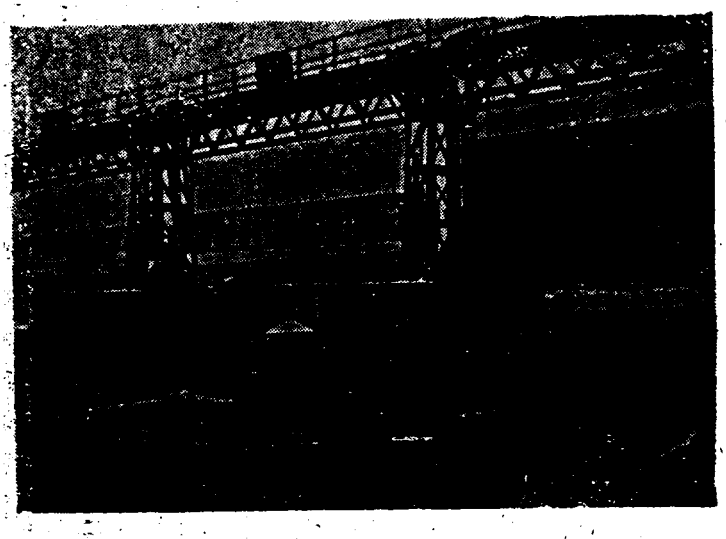
双臺子河に遺る土木秘話

副會員　宮　崎　七　郎※



1889年頃南滿一帶は稀有の大洪水に見舞はれ殊に現盤山縣唐家窩堡附近は桑田變じて碧海と成ると云ふ諺の如く一面の泥海と化し非常な慘狀を呈した。當時地方の官憲も附近の農民も、この泥海の處理に隨分困惱したらしく翌年些少の減水を俟つて漸く農民の總賦役によりて名も無き河川にその滯水を排除すべく溝を開鑿したのであつた之れには鹽の密賣者が溝を利用し小舟を浮べ密に鹽の賣買を試みんとし資金の一部を融通し援助を與へたりして約半ヶ年の歳月を費し竣功したのである。然るに唐家窩堡附近に於ては遼河の本流が外遼河より營口を經て海に注ぐよりは寧ろ流路延長30粁も短い前記新開鑿溝を經て海に流下する方が自然の法則に從ふことになり遼河の流水が漸次この溝に流入し次第に川幅を增し大河の相を備へ遂には遼河流水の約 65 パーセントも奪ふに至つた。斯くして出來た河が双合子河なのである。之れが爲め唐家窩堡以下の遼河本流は流水涸渇し當時殷賑を極めし戎克の運航を妨げ又營口港の河口門洲の發達を增成するに至つた。比處に於て1910年頃之れが改善策に就て營口の在住民が當時の東三省督辨に建議する所あつたが當時の軍閥政府は財政の窮乏の折柄一顧だにしなかつた。其處でこの狀態を放任するに於ては外國貿易の衰微するを虞れ營口に駐在せる外國領事團が互に相謀りて領事團管理に基く遼河工程局なるものを設け營口港及び遼河戎克水路の改修を執行せしむる機關を特に設置した。これの財源には營口港に出入する船舶並に遼河上を運行する戎克船に課稅し或は東三省政府の一部醵出を俟つて居たのであるが當時の滿洲としてはこれ以外途が無かつたものと考へられる。

叙上工程局が最初に遼河に河川工事を企にたのは（營口港修築も同時頃なり）當時壺蘆島築港の顧問技師として派遣せられて居つた英人「ヒューズ」なる者の立案計畫せし石堤築設工事であつた。即ち双合子河に奪はれた河水を再び遼河に取戻すべく唐家窩堡より約1.5粁下流の冷家窩堡附近に双合子を横ぎり、石堤堤を築き洪水時のみ双合子河に河水を越流せしめ平水量以下の流量は總て外遼河を通じて往時の如く遼河に流下せしむる樣な計畫設計で工事を始めたのであつたが此の計畫設計中には閘門の備へなく從つて水運者は該堤堤に於て貨物の中繼を余儀なくせしめられしのみならず、本堤堤の上流地區に在住せし農民は河中にかゝる流下を阻止するが如き工作物の設置によりて洪流の快流が阻げられ常に洪水の脅威に怯びやかさることを憤り又本堤堤下流の住民はこ

※　交通部水路司河川工務科技士

の施設によりて此の頃から漸く竣建せんとせし水田營農者に須要なる灌漑用水の供給を遮斷するものなりと憤し之れに當地附近の管理者たる道尹（縣知事）迄が陰に教唆して或る日農民一揆が蜂起するところとなり、工程局員が折角粒々辛苦して築き上げし大部分の堰堤はこれ等暴徒によりて一夜の内に破壞し去られたのであつた。此んな事件のため外遼河の水深日々に淺くなり戎克運航に支障を來したるを以て幾分にても双台子河に奪はれた洪水を外遼河に引き戻すべく外遼河の入口に於てプリオトマン浚渫船の働きにより洪水の導入をなすなどの如き姑息的手段を講ずるより外致し方が無かつたのであつた。

1920年工程局の仕事が上游工程局と下游工程局とに分離せられ下游工程局は營口港の修築に專念し英人技師をして之れが施工に當らしめ、上游工程局は遼河上流一帶の戎克水路保持の爲め日本技術者をして技師長となし之れが任に當らしむとの工程局委員會決議に基き上游工程局技師長として任命せられたのがかの有名な岡崎文吉博士であつた。同博士は數回の踏査に依り現盤山縣二道橋子附近より遼河沿岸三叉河の下流に位する夾信子間14哩の新開河開鑿計畫を案し工程局の承認を得て翌1921年より之れが施工をなすに到つた。此の新開河の規模は堤防間幅員千呎を有し其の中に幅員60呎低水位以下水深7呎半河床勾配一萬分之一の低水路を備へたるものである。當時匪賊の跳梁する中にありて上海の某請負業者を督し克く三年の短日月を以てこれを竣功せしめたるは日本技術者の名譽として滿洲土木界に永久に特記すべきことなりと思ふ。

此處に掲載せし寫眞は此の新開河の流頭附近に双台子河を横切り築造せられた水門の一部にして常時はこれを閉めて双台子の大部分の水を新開河に流下せしめ外遼河の戎克水路に代はり新に戎克運航に備へんとしたものである。此の水門は幅30呎高12呎のストーニ式水門七連にして右岸に一連の片開き閘門を有す。この水閘門の上流及び新開河の流頭附近の河岸は岡崎博士創案に係る鐵線連鎖のコンクリート單床にて被覆して浸蝕をを防止した等は當時としては少なく新式の工法であつたに相違ない又水閘門の門扉及び開閉装置に用ひし鐵材は遠く英京ロンドンより輸入せしものと稱せられいかにも歐米依存の當時の俤が此處にも偲ばれて一入今昔の感を深くするものである。

其の後月變り星移りて滿洲國の建國となるや之れが施設の接收を受け營口航務局をして之れが管理に當らしめ戎克水運に寄與せしことがあつたが漸次戎克水運の衰微に從ひ此れ等施設の利用や維持も亦一時放任するの止むなきに至りたるために水閘門の開閉操作行はれず。從つて新開河には泥土を多量に含める高水流量のみが流下することとなり、逐次この流泥の沈積作用に因りて河床が隆起し今日にては新開河竣功當時に比し優に1米以上も河底が埋堆して居るやに見受けられのである。

然るに輓近盤山地區に水田造成事業の興るや徒に昔の俤を双台子河の河面に映じ昔戀しと託顔せるこの水閘門が再び世のため利用更生することになり目下ペンキにて塗装せられ晴々しい姿を水田原の一角に出現して居ることは蓋し喜しい限りである即ち盤山水田に送り込む灌漑用水の堰上げにこの水門を利用するのであつて興農滿洲一翼を負ふ輝やかしき存在となつたのである。

本稿を草するに當り橫内科長に甚大なる御指導を賜り特に御繁忙にも不拘校閲添削をなし下されし御好意に對し末筆ながら厚く御禮を申し上ぐ。